



Cisco UCS Configuration Utility クイック スタート ガイド

Cisco UCS Configuration Utility 2

概要 2

サポートされるオペレーティング システムとサーバ 2

コマンドのリスト 3

ユーティリティの使用 4

テキスト ファイルの作成 6

その他の情報 7

Revised: November 28, 2012,

Cisco UCS Configuration Utility

概要

Cisco UCS Configuration Utility は、以下のサーバパラメータを変更できるツールです。

- BIOS
- CIMC

このユーティリティでは、BIOS および CIMC パラメータの現在の設定値を、XML ファイルまたはテキストファイルで確認できるようになります。これらのパラメータの値を変更するには、現在の設定値をテキストファイルに抽出し、変更後にそのテキストファイルを適用します。BIOS および CIMC パラメータの変更の詳細については、「[ユーティリティの使用](#)」を参照してください。



(注) このユーティリティを使用して変更できるのは、CIMC でサポートされるパラメータだけです。

サポートされるオペレーティングシステムとサーバ

サポートされるオペレーティングシステム

- Red Hat Enterprise Linux 5
- SUSE Linux Enterprise Server 10
- SUSE Linux Enterprise Server 11
- Microsoft Windows 2008 x64
- Microsoft Windows 2008 R2 x64
- Microsoft Windows 2008 x86
- Microsoft Windows 2008 R2 x86
- Microsoft Windows Pre-installation Environment (WinPE) 2.0 x64
- Microsoft Windows Pre-installation Environment (WinPE) 2.0 x86
- UEFI 2.0

サポートされるサーバ

- UCS C-200

- UCS C-210
- UCS C-220
- UCS C-240
- UCS C-250
- UCS C-260
- UCS C-460

コマンドのリスト

Cisco UCS Configuration Utility には、BIOS および CIMC パラメータの表示と変更に使用できるコマンドのセットが用意されています。

コマンド	説明
ucscfg help	すべてのコマンドのヘルプ ページを表示します。
ucscfg show xml /bios	BIOS パラメータの値を XML ファイルで表示します。このファイルには、各パラメータの有効なすべての値が示されています。
ucscfg show text /bios	BIOS パラメータの値をテキスト ファイルで表示します。テキスト ファイルには、各パラメータに現在設定されている値が示されています。
ucscfg show xml /cimc	CIMC パラメータの値を XML ファイルで表示します。このファイルには、各パラメータの有効な値が示されています。
ucscfg show text /cimc	CIMC パラメータの値をテキスト ファイルで表示されます。テキスト ファイルには、各パラメータに現在設定されている値が示されています。
ucscfg show text /bios > filename.txt	BIOS パラメータのテキスト出力を、ユーティリティ外部のテキスト ファイルにリダイレクトします。このファイルには、現在設定されている BIOS パラメータが示されています。このファイルは、すべての BIOS パラメータの変更に使用されます。
ucscfg show text /cimc > filename.txt	CIMC パラメータのテキスト出力を、ユーティリティ外部のテキスト ファイルにリダイレクトします。このファイルには、現在設定されている CIMC パラメータが示されています。このファイルは、すべての CIMC パラメータの変更に使用されます。

コマンド	説明
<code>ucscfg batch set filename.txt</code>	<p>BIOS および CIMC パラメータに対して行われた変更を適用します。このコマンドは、テキスト形式のみサポートします。XML 形式はサポートされていません。</p> <p>EFI では、テキスト ファイルを UNICODE 形式にエンコードする必要があります。Windows および Linux オペレーティング システムでは、テキスト ファイルを ANSI 形式にする必要があります。</p>
<code>ucscfg batch -ignore set filename.txt</code>	<p>BIOS および CIMC パラメータに対して行われた変更を適用し、サーバの BIOS バージョンは無視します。</p> <p>このコマンドは、作成したファイルの BIOS または CIMC パラメータを適用するために使用します。1 つまたは 2 つのパラメータのみ変更する必要がある場合は、独自のファイルを作成できます。独自のファイルの作成の詳細については、テキスト ファイルの作成、(6 ページ) を参照してください。</p>
<code>ucscfg bootorder set <parameters></code>	<p>サーバの現在の起動順序設定を変更します。</p> <p>このコマンドは、UCS C-220 および C-240 サーバの Microsoft Windows オペレーティング システムでサポートされています。Linux オペレーティング システムでは、サポートされるオペレーティング システムとサーバ、(2 ページ) の項に示したすべてのサーバで、このコマンドがサポートされています。</p>
<code>ucscfg get /bios/boot-order</code>	<p>起動デバイス パラメータのリストを表示します。このコマンドの出力には、起動デバイス パラメータ名と対応する数値が示されます。このコマンドは、UCSC-220 および C-240 サーバではサポートされていません。</p>

ユーティリティの使用

Cisco UCS Configuration Utility を使用すると、サーバの BIOS および CIMC パラメータの値を変更できます。このユーティリティを使用すると、XML ファイルの現在設定されているパラメータの値を有効な値のリストと共に表示し、テキスト ファイルの値を変更して適用できます。



(注) このユーティリティを使用するには、IPMI サービスが実行されている必要があります。

手順

- ステップ 1** Cisco UCS Configuration Utility を起動します。
- <http://www.cisco.com/cisco/software/navigator.html> の [Download Software] ページにアクセスします。
 - [Unified Computing and Servers] > [Cisco UCS C-Series Rack-Mount UCS-Managed Server Software] > [Unified Computing System (UCS) Utilities] をクリックします。
 - オペレーティングシステムを選択し、ISO イメージをダウンロードします。
Cisco UCS Configuration Utility は、zip ファイルおよび tar ファイルで入手できます。
 - zip 形式のファイルまたは tar ファイルの内容を抽出します。
ユーティリティが動作するためには、ダウンロードされたファイル内のすべてのファイルが必要です。そのため、zip ファイルまたは tar ファイルから抽出したファイルを削除または移動しないでください。
 - ユーティリティが格納されたディレクトリから、ユーティリティを実行します。
64 ビットのオペレーティングシステムに対しては `ucscfgx64` ファイルを使用し、32 ビットのオペレーティングシステムに対しては `ucscfgx86` ファイルを使用します。

Linux オペレーティングシステムでユーティリティを実行すると、IPMI サービスが実行中かどうかを最初に確認されます。サービスが実行中ではない場合は、ユーティリティが IPMI サービスを開始します。
- ステップ 2** BIOS および CIMC パラメータに設定された値および有効な値のリストを表示します。
- BIOS の場合 :
- ```
ucscfgx64 show xml /bios
```
- CIMC の場合 :
- ```
ucscfgx64 show xml /cimc
```
- ステップ 3** BIOS または CIMC のパラメータを変更するには、現在設定されているパラメータの値でテキストファイルを生成し、そのテキストファイル内で変更を行います。Windows サーバでテキストファイルを生成するには、次のコマンドを実行します。
- BIOS の場合 :
- ```
ucscfgx64 show text /bios > bios.txt
```
- CIMC の場合 :
- ```
ucscfgx64 show text /cimc > cimc.txt
```
- Linux サーバでは、次のコマンドを実行します。
- BIOS の場合 :
- ```
ucscfgx64 show text /bios > bios.txt
```
- CIMC の場合 :
- ```
ucscfgx64 show text /cimc > cimc.txt
```

BIOS および CIMC のパラメータの値は、*bios.txt* ファイルおよび *cimc.txt* ファイルに保存されます。

ステップ 4 テキスト ファイル内のパラメータを変更し、ファイルを保存します。

ステップ 5 テキスト ファイルを適用します。

BIOS の場合 :

ucscfgx64 batch set bios.txt

CIMC の場合 :

ucscfgx64 batch set cimc.txt

ステップ 6 サーバをすぐに再起動し、BIOS パラメータを新しい値で更新します。

サーバをすぐに再起動しなかった場合は、BIOS パラメータが更新されず、変更されないままとなります。パラメータを再び変更してサーバをすぐに再起動した場合は、2回目に行った変更が反映されます。BIOS パラメータに対して行った以前の変更は、サーバ上で更新されません。

テキスト ファイルの作成

BIOS および CIMC パラメータの値を変更するには、このユーティリティでユーティリティ外部にファイルを作成し、ユーティリティを使用してその変更を適用できます。このオプションは、BIOS または CIMC の 1 つまたは 2 つのオプションを変更する必要がある場合に使用できます。このテキストファイルを作成する前に、XML ファイルを生成し、BIOS および CIMC パラメータの現在設定されている値と、許容される値を確認することを推奨します。

手順

ステップ 1 Cisco UCS Configuration Utility を起動します。

ステップ 2 BIOS および CIMC パラメータに設定された値および有効な値のリストを表示します。

BIOS の場合 :

ucscfgx64 show xml /bios

CIMC の場合 :

ucscfgx64 show xml /cimc

ステップ 3 この XML 出力ファイルを基準として使用し、変更する必要があるオプションを含むテキスト ファイルを作成してください。

テキスト ファイルを作成する際は、次のガイドラインに従う必要があります。

- 機能名の後ろに、XML ファイルにある [target-token] フィールドの名前を付ける必要があります。
- 値を指定するには、必ず XML ファイルにある <setting name> タグで示された値を使用します

たとえば、次の XML ファイルの内容は、POST Error Pause パラメータに現在設定されている値および許容される値を示しています。このパラメータの現在の設定値は Enabled です。

```
<BIOS vendor="Cisco" version="36-132" />
<BIOS vendor="Cisco" >
  <feature name="Main" target-token="Main" >
    <parameter name="POST Error Pause" target-token="POSTErrorPause" >Enabled
      <Setting name="Disabled" value="0" type-hint="number" is-default="yes" />
      <Setting name="Enabled" value="1" type-hint="number" is-default="no" is-current="yes"
    />
  </parameter>
</feature>
```

このパラメータをディセーブルにするには、上記の下線を引いた部分の内容を、XML ファイルからテキスト ファイルに含める必要があります。

```
/bios/Main/POSTErrorPause Disabled
```

ステップ 4 次のコマンドを使用してテキスト ファイルを適用します。

BIOS の場合 :

```
ucscfgx64 batch set bios.txt
```

CIMC の場合 :

```
ucscfgx64 batch set cimc.txt
```

テキスト ファイルを適用すると、ユーティリティは最初にサーバの BIOS バージョンが、テキスト ファイルに示されたバージョンと一致しているか確認します。サーババージョンが一致しない場合は、エラー メッセージが表示され、変更が適用されません。オプションとして、BIOS バージョンを確認することなくパラメータの変更を適用できます。そのためには、次のコマンドを実行します。

```
ucscfg batch -ignore set filename.txt
```

ステップ 5 サーバをすぐに再起動し、BIOS パラメータを新しい値で更新します。

その他の情報

Cisco UCS の関連ドキュメント

マニュアルのロードマップ

すべての B シリーズ ドキュメントの完全なリストについては、『*Cisco UCS B-Series Servers Documentation Roadmap*』 (<http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/b-series-doc>) を参照してください。

すべての C シリーズ ドキュメントの完全なリストについては、『*Cisco UCS C-Series Servers Documentation Roadmap*』 (<http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/c-series-doc>) を参照してください。

その他のマニュアル リソース

すべての B および C シリーズ ドキュメントが収録されている ISO ファイルは、<http://www.cisco.com/cisco/software/type.html?mdfid=283853163&flowid=25821> で入手できます。このページで、[Unified Computing System (UCS) Documentation Roadmap Bundle] をクリックします。

ISO ファイルは、主要なマニュアル リリースごとに更新されます。

ドキュメントの更新通知を受け取るには、[Twitter](#) の『Cisco UCS Docs』に従ってください。

マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、HTML ドキュメント内のフィードバックフォームよりご連絡ください。ご協力をよろしくお願いいたします。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

© 2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

©2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc.またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は2008年10月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>